

## 平成 27 年度第 3 回岩手県地方独立行政法人評価委員会 結果概要

I. 日時 平成 27 年 8 月 5 日（水） 15：00～16：00

II. 場所 いわて県民情報交流センター アイーナ 8 階 802 会議室  
抜粋

### III. 参集者

- 1 岩手県地方独立行政法人評価委員会  
西崎滋委員長、室井麗子委員、下田栄行委員、恒川かおり委員、工藤昌代委員、関内隆専門委員
- 2 岩手県立大学  
石堂淳企画本部長ほか県立大学事務局職員
- 3 事務局（県総務部総務室）  
総務部 佐藤副部長兼総務室長ほか総務室・人事課職員

### IV. 会議要旨

【西崎委員長】 それでは、7 月 14 日のヒアリングを受けまして、委員の皆様から寄せられた御意見等を踏まえて、平成 26 年度の評価を確定に臨んでいきたいと思ひます。御協力、よろしくお願ひいたします。

まず、本日の会議の公開の取扱いについて、お諮りをします。

「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、本日の会議の内容は、公開で進めさせていただきたく思ひますが、よろしいでしょうか。

【一同】 （異議なし）

【西崎委員長】 では、公開として進めさせていただきます。

### 議題 1 平成 26 事業年度公立大学法人岩手県立大学の業務の実績に関する評価について

【西崎委員長】 それでは、7 月 14 日のヒアリングを受けまして、委員の皆様から寄せられた御意見等を踏まえて、平成 26 年度業務実績評価を確定していきたく思ひます。御協力、よろしくお願ひいたします。

まず、1 番目の年度計画で、下田委員から大学院定員充足云々という意見で、他の委員が A 評価、下田委員が B 評価ということで、確認をしたいと思ひます。年度計画では大学院については、大学院定員充足に向けた取組を推進するということで、いろいろ充足に向けた取組があったかなと私は法人の評価「A」でいいのではないかと思ひますけれども、下田委員からは、充足に至っていないということで。

【下田委員】 私は監査で、学校法人、私立などを見ていて経営の根幹となるのは充足だろうというところで、問題提起ということで。平均すれば、皆さん A ということでよいと思ひます。

【西崎委員長】 ただ、文系の大学院だと、マスターコースでの定員充足がかなり厳しい状況にあります。理系の方だとドクターコースが問題になります。他の大学でもなかなか苦慮しているところかな、と思ひます。

A評価ということで進めさせていただきます。

資料1の項目番号4、これは平均4.7ということでAA評価ということで、よろしいですね。何か御意見ございましたらお願いします。

【一同】（意見なし）

【西崎委員長】 項目番号4はこれで進めさせていただきます。項目番号7ですけれども、これはどういう計画であったかという、「英語科目、外国語科目の改革を行うとともに、情報処理科目及び入門演習科目における学習成果を検証し、改革を検討する。」ということでございます。法人の評価はAということですが、計画の進行状況等を読むと、英語科目、外国語科目云々という項目の記載が全く見当たらないので、恐らく下田委員から成果がないということだったのでしょう。何か県立大学の方で具体的にこんなことをやってきた、ということの説明いただければと思います。

【石堂企画本部長】 外国語科目のカリキュラム改革については、授業の時間割の都合上、英語と情報処理科目はクラス分けとセットにしなければいけないこともあり、英語の改革を先に行いました。他の外国語科目についても計画していましたが、なかなか思うように進みませんでした。その代わりに、情報処理科目の改革が進みました。国際交流のところで出ていると思いますが、英語の方は全学共通科目の中で、アメリカのボストンでの海外研修事業を新たに行うことになった部分もあります。英語も含めて考えると少し充実したかなと思っています。

【西崎委員長】 直前の、6と関係しているのですね。ここで、英語科目、外国語科目の改革を行うとして、これは、行われなかったのでBと。次の7のところは、後半の部分の計画と考えた方がよかったですね。ここは、情報処理科目については進展があったということで、Aと。よろしいですか。

続きまして、17、18、19は、委員の方からも評価が高かったところでございます。AA評価ということで、委員会の評価はワンランクアップということになります。これでよろしいですね。特に、A評価にされていた委員の方で何かあればお願いします。

【一同】（意見なし）

【西崎委員長】 続きまして、21はちょうどA評価とAA評価が半々になっているとのことですが、このところで意見交換をして参りたいと思います。私は、県内の就職者数が増加してAAとしたところですが、もう少し、色々な企業や病院の開拓を、という御意見もあるようです。

【室井委員】 Bより良好なのではないかということでAと。

【下田委員】 Aなのに理由はなくて、AAにする理由がつけられなかったということです。

【西崎委員長】 理由にあるように、特筆すべき進捗状況とまでは言えないということで、A評価でよろしいですね。

【一同】（異議なし）

【西崎委員長】 次は、27という項目があるのですが、これは、「学部横断的な研究の成果を探るため、各学部等の研究者交流を支援するとともに、研究活動の推進につながる研究環境整備に向けて検討を行う」という年度計画だったのですが、室井委員からは、計画どおり進んでいるのではないかと、Bとする理由がないとあったのですが、計画を文字通り読むと、研究活動の推進につながる研究環境整備ということが、コンプライアンス等に関連した研究費

の管理とか、そういうことにとどまっているということで、不十分かなという判断でBだったのだと私は判断していますが、県立大学の評価がBなのはそういう意味ですよ。

【石堂企画本部長】 1番のところにありますように、学部横断的なプロジェクトを企画して実施していますが、これを除くと各学部の中での研究が多くなって、そこがまだ十分ではないかなと。

【西崎委員長】 室井委員、よろしいですか。

【室井委員】 はい。自己評価をBにされた場合は、なぜBになったのか計画の進行状況等の中に明記されているのですけれども、ここは、こうで、こうで、こうで、と書いているのですけれども、ここが不十分であったという点が明記されていないので、計画の進行状況等を見るとAでいいのかなと思ったので、こういう記載になりました。Bになっているところは、だいたい進行状況等の中で、「及ばなかった」とありますけれども。

【西崎委員長】 本来は、ヒアリングの中で、A評価はAでいいのかという確認をヒアリングではしてきたのだけれども、B評価にあってはどうかというのは、なかなか聞いていなかったかもしれませんね。ただ、あのとき、研究環境整備はまだですねということは私から質問した記憶があります。ここは、B評価でよろしいですね。

それでは、続きまして30のところは、半分以上の委員の方がAA評価ということで、これは、AA評価ということにさせていただきます。

それから、32も同様です。

それから、34ですけれども、関内委員から基本方針策定が望まれるとコメントがありますが、そのひとつ前の項目のところに、「岩手県立大学国際交流方針」というものを策定したとすることで、この基本方針策定とは別物を想定されていますか。

【関内専門委員】 ヒアリングの際にこれをめぐって学長さんからの意見があって、グローバル人材をどのように育成するかという点で、まとまったものがないのかなという印象を持ったものでコメントしました。

【西崎委員長】 県立大学としては、そうですね。

【石堂企画本部長】 学生の交流や研究者の交流その他環境整備などの包括的な方針を定めたということです。

【西崎委員長】 そのところまでは、進展したということですよ。

【関内専門委員】 国際交流について今回すでに策定しているということですが、後は具体的に海外に何のために派遣するのか、外国人留学生を迎えて最終的に何をするかというもう少し具体的な戦略、実施方針、そんなイメージでしょうか。そういうものを今後詰めていくべきかと思います。これはできあがっているのでしょうか。

【石堂企画本部長】 昨年度に、もう具体的な項目も定まっております、つい1、2週間前の戦略会議においてどういった点に重点を置いて今年度取りかかろうかというところまでは検討しているところであります。

【関内専門委員】 了解しました。それでは、私が特記事項として書いた事項は削除してもらって構いません。

【西崎委員長】 年度計画の達成ということで、A評価ということは変わりません。

それから、37の計画です。これは微妙なところなのですが、要するに、改善策を検討する

ということでB評価なのですが、評価者に書面により意見照会を行うところまでは進めた、そこまでしか進んでいない、捉え方ではBではなくてCではないかという御意見もあるとのこと。ここはB評価でいいのではないかという意見が多いので、そのところを了解していただいて。

こここのところは、改善策が検討しにくい、大変ですよ。

【石堂企画本部長】 御指摘、厳しいところですが、現状をお知らせいたしますと、二次評価者の学部長の先生方をお願いして意見照会したものに基つきまして、先月までにヒアリングを終えましたので、遅れた分を取り戻すように進めております。

【西崎委員長】 県大では、評価の基準は学部別に設定されているのですか。

【石堂企画本部長】 基本的には統一で。

【西崎委員長】 教育研究全て、地域貢献、学内の委員会等全て点数化して、その点数をどのように各学部で評価するかというところで、違いがあると。

【関内専門委員】 学部によってかなり違うと思うのですけれど。

【石堂企画本部長】 1次評価で4つの分野、教育、研究、学内運営、地域貢献という分野につきまして、項目別自己評価して点数化します。点数化した自己評価に対して二次評価者が適切な評価か、あるいは自己評価どおりの評価かどうか他者評価を行います。ある程度統一的な基準で対応できます。職位によってある程度ウエイトを変えるということはありません。

【西崎委員長】 その辺は引続き御努力いただくということで、B評価として進めさせていただきます。

39の項目は、AA評価ということで大勢の評価が一致したところであります。

41の項目で、これはヒアリングの時にも議論になりましたけれど、科研費の応募件数や自己資金の金額について目標値を設定できないかと下田委員から御指摘があります。

応募件数は、ヒアリングの説明の時にありましたけれど、科研費とは別の外部資金の方がふさわしい先生もいらっしゃるということで、別の外部資金も含めてどのくらい応募しているかが重要ではないかという気がします。

目標値というのは多分、応募件数を何パーセント以上にしようという数値目標ですね、その辺は検討してもらいたいと思いますけれど。関内委員はどうですか。

【関内専門委員】 うちの大学も部局評価を行っております、その中で科研費関係というのは指標となっています。ただ、文系学部と理系学部は違うので、そこは考慮しないといけないと思います。理系の先生は複数のケースを応募するのですよね。これは一律ではまずいと思います。文系はなかなかそうもいかないし、採択率もそんなに高いわけではなくて。

【西崎委員長】 採択率はこの際置いておいて、応募率というか申請率というか、その方が重要なと学長もおっしゃっておりますし、それはそのとおりだと思います。採択されるかどうかは他の応募者との兼ね合いもありますから。

【石堂企画本部長】 御意見いただいたとおりでございます。分野あるいは学問の領域によっては、外部資金に適切なものがない場合もありますから、その場合を考えますと科研費は文系でもある程度応募できる部分がありますので、学長はそういう点で強調しているのだと思います。外部資金が科研費以外でも取りやすい領域・分野もあれば、そうでない分野・領域もありますので、この辺りを少し考えながら目標設定する場合の取組が必要だと思っております。

【西崎委員長】 続きまして 46 ですが、これは申し訳ありません。私の評価を入れ間違えまして、AA、5点としてください。訂正します。そうすると平均が 4.7 で AA となるのではないのでしょうか。私は、キャンパスアテンダントによる新たな企画をされたということ、それから、直接かどうかは分かりませんが、オープンキャンパスの来場者の増加が結果として出ているということで、ここを高く評価したいと思います。

他の委員の方で何か。

ここは AA 評価とするという事でよろしいですか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 それから 49 は A 評価のままですという事でございます。

最後 50 ですが、かなりの委員の方が AA 評価ということで、A から AA 評価へ委員会評価は上げることでよろしいですね。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 資料 2 を御覧ください。1 ページ目の全体評価を委員会として決定する必要があります。案を読みますので、少し御意見をお願いしたいと思います。

(西崎委員長が、資料 2 1 ページから 2 ページを読み上げ)

最後の表現はどうですかね。着実な推進が図られているということですが。

【関内専門委員】 B 評価の項目もありますので、B 評価の項目も今後達成するようにという意味合いの文章がよろしいでしょうね。

【西崎委員長】 取組の底上げというところがかなり遅れているイメージがありますよね。ですから、「達成を見据えた着実な取組」とかそういう表現にした方が概ね達成しているけれども、さらにもう一歩進めて欲しいという意味を表現ができると思います。

【関内専門委員】 1 行目に、「C 評価」「D 評価」という言葉が出ていますよね。2 段目は、「達成を見据えて B 評価の項目を」という表現では。

【西崎委員長】 そうですね。「B 評価の取組を着実に促進されることを望む」とか。

2 ページ目の「改善が望まれる取組について」は、「今後、第 2 期中期目標の達成を見据えて B 評価項目等の取組を着実に推進することが望まれる。」と。

全体評価あるいは項目別評価について御意見等がございましたらお願いいたします。

【一同】 (意見なし)

【西崎委員長】 それでは、以上の内容で少し事務局と私の方で修正案を確定してもう一度皆様にメール等でお諮りします。それを見ていただいて最終案にしたいと思います。

これをもちまして、第 1 の議題につきましては、終了いたします。

## 議題 2 公立大学法人岩手県立大学の平成 26 年度財務諸表に係る知事の承認について

【西崎委員長】 それでは 2 番目の議題の「平成 26 年度財務諸表に係る知事の承認について」に入らせていただきます。この件につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料 No. 3 により説明)

【西崎委員長】 ただ今の説明について、御意見等はございませんでしょうか。

【一同】 (意見なし)

【西崎委員長】 それでは、事務局案のとおりで決定してよろしいですか。

【一同】 （異議なし）

### 議題3 公立大学法人岩手県立大学の剰余金の翌事業年度への繰越に係る知事の承認について

【西崎委員長】 それでは3番目の「剰余金の翌事業年度への繰越に係る知事の承認について」という議題に入りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

【事務局】 （資料No.4により説明）

【西崎委員長】 ただ今の事務局からの説明につきまして、御質問、御意見はございませんでしょうか。

【下田委員】 今の具体的な利益処分書類、正式なものは以前送っていただいておりますでしょうか。

【事務局】 財務諸表の4ページのところに具体的な記載がございます。

【西崎委員長】 この件につきましても、事務局案のとおりでよろしいでしょうか。

【一同】 （異議なし）

### その他 公立大学法人岩手県立大学に係る中期目標期間の業務実績評価（暫定的な評価）の実施について

【西崎委員長】 事務局の方から説明をお願いします。

【事務局】 （資料No.5により説明）

【西崎委員長】 ただ今の事務局からの説明につきまして、何か御質問、御意見はございませんでしょうか。

【下田委員】 基本的なことなのですけれども、実施要領案の3ページ、②評価委員会による評価の留意点、ここに書いてある内容は、法令等に基づいて同じ内容になっているものですか。それとも、この内容については、この委員会の中で意見を出してもいいのか、どういうレベルのものなのか分からないので、教えてください。

【事務局】 暫定評価自体は法定のものではないので、ある程度委員会の判断に基づいて行うものになると思います。

【下田委員】 よく読むと、どういうことなのか分からないところがあって。個人的な意見として後で集約するというところでよろしいですね。

【事務局】 具体的にこの箇所というところがあれば。

【下田委員】 例えば、アに書いてある「目標が未達成であっても、積極的な取組については適切に評価し、法人の継続的な努力を求め、目標の達成を促す。」という目標が未達成というのはどういうことでしょうか。

【西崎委員長】 6年の計画の4年目ですから、あと2年あるので、その期間で力を入れて目標を達成してくださいということかと思います。

【下田委員】 単年度で未達成というイメージですか。

【西崎委員長】 6年間の最初の4年間の部分です。

【関内専門委員】 今回は暫定的な評価なので、6年間が終わった後には最終評価はされるわけなのですか。

【西崎委員長】 暫定評価と大きく変わるところを付け加えるくらいかと思います。

【関内専門委員】 基本的には書面で大学側が自己評価報告書を作って、それに基づいて大学の執行部側から説明を受けてという形になりますね。今回は1年分ではなくて4年分を。

これに関連して、法人評価の委員会として適当かどうか分からないのですけれども、学生さんからの声を聞きたいと思うのですが、そういうようなことはないのでしょうか。今までやっていないですよ。

【事務局】 大学から出していただく評価指標の中に学生アンケートの結果を資料として出しているのですけれども。前回、第1期中期計画期間中の暫定評価においては、それをもって学生さんの声ということで出させていただきました。

【西崎委員長】 評価委員会が学生から直接意見を聞くというのは、認証評価でもありましたか。

【関内専門委員】 認証評価でもありますが、今回の場合、そういうことは仕組みとして入っていないのですね。

【事務局】 参考までに、学生の意見を聞くというのはどのような。こういったヒアリングの場に来てもらうと。

【関内専門委員】 大学の執行部の先生方とは別に場所を設けて、県立大学で学んでどういふことが有益だったかなどを確認する作業になるかと思います。

【西崎委員長】 我々の評価以外に外部評価をやられているわけですよ。

【関内専門委員】 学生の声を大学側ではなく第三者が把握してフィードバックするということになりませんが、このような方式は認証評価だけですかね、やっているのは。

【西崎委員長】 ワークショップをやられていますよね。公立大学協会の。

【石堂企画本部長】 公立大学協会のワークショップの場合は、学生の取組を学生にプレゼンテーションしてもらい、その際には委員の方々から直接学生に対して質問するということが行われました。

【西崎委員長】 7年に1度認証評価を行われていますよね。その際には学生に教育システムの質問を評価委員から行いますよね。

【石堂企画本部長】 認証評価を本学は今年度受審する予定ですが、前回はありまして、一般的にも学生とか学部単位での教員へのヒアリングはやっているようです。多分、今回も同じようなヒアリングはあると思います。

【西崎委員長】 その時に、学生からの授業評価とか達成度評価を聴取しているデータは準備されていますよね。

【石堂企画本部長】 基準協会の場合ですと、そろそろだと思いますが、評価委員会の分科会からの質問項目が決まっていて、質問項目の中にデータとして示すものがあればそれを用意することになると思います。

【西崎委員長】 今回は間に合わないかもしれませんが、そういうものを参考にさせていただいて学生がどのように受け取っているか、意見の聴取の代わりに利用することは可能ですね。

【石堂企画本部長】 暫定評価の場合は、これまでの年度実績の評価とは異なり、ある程度中間段階で目標とする状況、数値目標を挙げている項目もありますので、そういったものに対する資料として、データベースであるマネジメントシステムの資料とかその基になっておりま

す各種アンケートについても参考資料としてつけることは可能かと思えます。

【西崎委員長】 今後暫定評価をしていく中で、こういうデータが欲しいというようなことがあれば、大学の方に要求して。

【関内専門委員】 就業力支援システムのIPUEマップというものを実際見たことがないので、ぜひ拝見したいですね。

【西崎委員長】 これはかなり高く評価していますよね。学部別の具体的な実施状況とか。

【石堂企画本部長】 提出できると思います。

【下田委員】 さっきの続きになります。②のエ、「中期目標の達成可能性が低いと判断される項目であっても、法人の特性や社会環境等に配慮して評価をする。」というのは具体的にどういうケースなのかなと。達成可能性が低いけど評価するというのは。

【西崎委員長】 例えば、研究計画を立てて進めようとしていたけれども、震災によってそちらに人が割かれて目標を達成できなかったとか、そういうことしか思い浮かびませんが。大学院の充足率は、かなり社会環境に影響されると思うのですよね。文系の大学院だと、就職状況がいいと大学院まで行く人がなかなか現れてこないとか。

【下田委員】 例えば、現実としては達成できないからCとなりそうだけでも、環境を考えるとBでいいよという考え方なのですか。

【西崎委員長】 それは評価としてCにせざるを得ないでしょう。

【下田委員】 Cにしておいて意見を述べるのはありだと思うのですが、配慮して評価するといったときに、評価を変えるのか意見をつけるのかこれだと難しいです。

【西崎委員長】 そこは、この委員会に任されています。

他にございませんか。それでは、以上でその他の意見交換は終わりたいと思います。

その他、委員の皆様から何かありますか。

【一同】 (特になし)

【西崎委員長】 では、以上をもちまして、議事を終了させていただきます。

御協力どうもありがとうございました。